
手をつなごう

ぴぴこ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

手をつなごう

【コード】

N4610J

【作者名】

ぴぴこ

【あらすじ】

手をつなぐまでの様子

(前書き)

隣を歩く彼の手はいつもポケットの中。

付き合って1ヶ月。

一緒に帰るようになったけど、それ以外何もない。ほぼ会話もなく帰るだけ。

(本当は好きじゃないのかな……?)

そう考えただけで、目が潤む。ヤバい、泣きそう。

告白したのはあたしから。

彼は何も言わずにただ微笑んだけだった。

それ以来、毎日一緒に帰るようになったけど……

(もしかして付き合ってるわけじゃないのかも)
だって言葉で言われたわけじゃない。

一緒に帰るだけで、深い意味はないのかも。

もともと帰る方向同じだし……。

そう思ったら足が自然と止まった。

(このまま行ってしまったら、きっと……)

彼は気づかないで歩いていってしまつう。

(やっぱりそうなんだ……)

涙を我慢するのももう限界だ。

顔を俯かせて声を殺して泣いた。

しばらくして、頭の上に重いものが置かれた。

「……具合悪くなつたのか？」

聞き覚えのある声が頭の上から降ってくる。

(どつして……?)

その声ですますます涙が流れる。

「……歩くの速かつたか？」

彼が私の顔を覗きこむ。

涙でぐちゃぐちゃの顔なんて見られたくないから両手で隠した。

「……何で泣いてるの？」

「……」

好きじゃないんでしょう？つて言いたいけど、肯定されるのが怖くて
言えない。

聞きたくない。

その時、彼が私の両手を掴んだ。
びっくりして彼を見つめる。

「ちゃんと言わないとわかんない」

「……好き？」

見たこともない真剣な彼の顔に思わず口からこぼれ落ちた。

彼は驚いた顔で私を見る。

(やっぱり……)

その後の言葉が怖くて目を伏せた。
また涙が出てきそう。

でもいつまで経っても言葉は来ない。

彼を見ると、何か言いたそうな顔をしたまま、こっちを見ていた。

「……それで泣いてたの？」

黙って頷くと、いきなり右手が彼の左手に握られた。

そして手を握ったまま歩き出す。

手を引っ張られるので私もつられて歩き出す。

「…俺は口下手だからちゃんと言えないけど……、これが俺の気持ち。」

伝わった？」

彼の手は暖かくて優しくで、それだけでまた泣きそうになる。

「うん」

耳まで赤くなってる彼。

きっと私も赤くなってるに違いない。

(後書き)

最後まで読んでいただきありがとうございました！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4610j/>

手をつなごう

2010年10月9日04時06分発行